

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300898		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム大鰐温泉保養館		
所在地	青森県南津軽郡大鰐町大字大鰐字湯野川原8-4		
自己評価作成日	令和4年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「住み慣れた地域の中で、心豊かな生活が送れるよう支援します」の理念のもと、地域の方々との交流を積極的に行い、地元の行事に参加しながら、生活の継続及び残存機能の維持に努め、利用者様一人ひとりに合わせたサービスを心がけています。  
ホームは温泉街に立地し、1ユニットの少人数での暮らしはゆったりと家庭的な雰囲気があり、施設内も温泉を利用して、利用者様の健康増進に役立っています。また、各居室内にはトイレと洗面台が設置され、自立した暮らしが送れます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点(評価機関記入)】

利用者が自分らしい生活を楽しめるよう、管理者及び職員は心優しく、暖かく利用者を見守っている。ホームは温泉を利用しており、利用者は週3回入浴を楽しみ、つかりすぎないように職員が見守って支援している。  
法人が年1回、家族へのアンケートを実施しており、その結果を現場に活かしている。また、職員の個人調査も実施して、要望や意見の把握に努めており、その内容を現場のサービス向上に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム独自の理念を作成してホーム内に掲示し、共有化を図り、毎朝申し送り時に唱和して実践に取り組んでいる。	「住み慣れた地域の中で、その人らしく心豊かに暮せるよう支援します」というホーム独自の理念を作成している。また、理念はホーム内へ掲示したり、唱和して確認する等、職員間で共有し、利用者が地域の中で、誇りや喜びを感じて暮らせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の行事に積極的には参加できない状況にあるが、感染状況を見ながら、つながりが途絶えないように取り組んでいる。	コロナ禍前は、保育園児との交流やボランティアの受け入れ、サロンの開設等、地域の住民との交流の機会を積極的に設けている。また、町内会に加入しており、毎年、町の文化祭に作品を出展し、その作品を見学に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症や介護についての悩みや相談、見学等を受け付けている。職員もキャラバンメイトになり、認知症予防・普及活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は新型コロナウイルス感染防止のため、招集することなく、書面での報告、照会をしている。	運営推進会議は書面により開催している。また、ホームの取り組み状況等を報告し、メンバーからは意見や労いの言葉もいただいております。今後のホーム運営やサービス向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健福祉課とは密に連絡を取り合いながら、様々なサービスについて相談したり、実情を報告して相談している。	町担当課職員が運営推進会議のメンバーとなっている。また、大雨により、指定避難所の小学校へ避難した際、様々な課題を把握し課題解決に向けて、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会・学習会を通して、身体拘束の弊害や具体的な行為について理解に努めている。施設玄関は防犯のために施錠しているが、帰宅願望ある時には一緒に出かける等の対策を取っている。	不適切なケアについて話し合いを行い、研修等で理解を深めながら、身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに努めている。また、マニュアルを整備している他、身体拘束適正委員会も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修会や学習会を通じて学習・理解し、利用者の様子や変化は記録に残して、常に注意を払い、虐待防止に努めている。また、職員間で不適切ケアについて話し合い、対策を取っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通じて理解しており、以前制度を利用していた方もあり、その際には担当者と協力・連携を取りながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書・契約書・運営規定等を十分に説明し、理解・同意していただいた上で署名・捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情相談受付窓口を掲示している。面会時や電話等で要望や意見を伺ったり、年1回、家族アンケート調査を実施して意見の把握に努め、内容を検討し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	年1回アンケート調査を実施したり、運営推進会議に家族代表者が参加する等、家族が意見を出せる機会を設けている。また、毎月発行している広報誌に、担当職員が利用者一人ひとりの普段の暮らしぶり等を書き添えて送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、法人から職員へ個人調書が配布され、職員が法人に対して意見を述べられる体制になっている。また、管理者が面談を行い、随時意見や要望を聞く機会を設けている。	月1回、職員会議を行っている他、年1回法人が行う個人調査では、職員が意見や要望を出し、必要に応じて反映される体制となっている。また、管理者も聞き取りを行い、職員の意見等の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を把握し、就業規則や給与規定に基づいて整備され、キャリアアップできるよう、職員のやりがいや向上心が持てる職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が平等に研修を受講できるように配慮し、職員の資質向上に努めている。また、資格取得に向けて助成金制度が確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加して、情報交換をしている。行事を通じて他施設との交流を図り、サービスの質の向上につなげているが、近年はコロナ禍のため困難である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限りホームを見学していただき、雰囲気を感じてもらい、不安な事や要望等を聞いてコミュニケーションを図りながら、信頼関係づくりに努めている。見学が困難な場合は面会に行き、本人から直接話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や申し込みの段階から施設見学をしていただき、困っている事や要望等を聞き、安心と信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話し合い、現状の問題は何か、必要としているサービスを考慮し、場合によっては他のサービスを紹介している。また、本人の拒否が強い場合や家族が納得しない時には待機者にして、空室がある時には連絡を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の立場に立って、本人の有する力を発揮できるように声がけし、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子等、家族との情報交換を密に行い、家族の思いや意向を反映させながら、理解と協力をいただいている。遠くにいる家族には、手紙や写真等を送ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前から利用していた馴染みの美容院や商店等を、入居後も利用できるように支援してきたが、今はコロナの影響で自粛している。また、知人との電話でのやり取りや窓越し面会・リモート面会も継続できるように支援している。	利用者の馴染みの関わりを把握しており、オンラインでの面会を行ったり、希望に応じて電話の取り次ぎのお手伝いをする等、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がより良い関係を築けるよう、職員が間に入り、コミュニケーションが円滑に図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても困った事や相談がある時は、何時でも応じることを必ず伝えている。また、退居先の関係者には利用者のケア等の情報を伝え、暮らし方の継続に配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や生活歴、家族からの情報を基に、思いや意向を把握するように努めている。また、利用者同士や職員との相性にも配慮しながら支援している。話すことが難しい方には利用者の立場になり、様子を見て支援している。	利用者とは何でも話せる関係を築き、日々の関りの中で、目を合わせてじっくりと話を聞き、利用者が話そうとしている事や思っている事を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、友人等から情報収集し、生活歴や暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意な事やできる事を見極め、ホームの日課はあるが強制することなく、自分のペースで暮らせるよう、一人ひとりの状態や希望に合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を確認し、主治医や訪問看護師等からも意見を聞いている。定期的にケアカンファレンスを開催し、現状の課題やアイデアを話し合い、サービス計画に反映させている。	担当職員は、利用者毎に定期評価を作成して提出しており、全職員で意見や気づきを出し合って話し合い、介護計画を作成している。また、家族が担当者会議に参加できるよう、都合の良い日を確認して日程を調整し、オンラインでの会議への参加も働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や心身の状態及び職員の気づき・工夫を記録し、職員間で情報を共有しながら、実践やサービス計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズ・状況を把握し、その時々に必要なサービスの提供や支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町民文化祭への作品出展をしたり、公民館から本を借りている、また、警察の巡回経路にしてもらったり、消防団や民生委員、地域の方々とも連携し、安全に安心して暮らせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望する医療機関を受診できるように支援に努めているが、家族対応が困難な方には往診を受けていただいている。受診結果等は、随時電話連絡や月1回の状況報告書で行ったり、家族受診の方には随時、気になる症状や残薬等について情報提供をしている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援しており、町外にある医療機関で受診する場合は、家族が協力している。また、受診結果は、月1回の入居者状況報告書でも報告し、共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用しており、利用者の体調や状態の報告、相談をして対応している。24時間いつでも変化がある時は連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合には日々の状態等の情報提供を行い、病院関係者や家族と話し合いながら、早期退院に向けた支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応について、入居時に方針を説明し、重要事項説明書を通じて家族から同意を得ている。状態変化がある時には再度、家族の意向を確認している。	入居時に重度化や終末期の対応について「重度化対応に関する指針」を基に説明し、ホームとしての方針を明確にしている。また、医療機関や家族との連携を図りながら支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、見える所に掲示している。また、AEDを設置し、全職員が定期的に救急救命の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間想定火災や地震、水害想定 の避難訓練を行い、地域の消防団や近隣の住人も参加し、実施している。また、災害時には、近隣住民や消防・警察からも協力が得られるように働きかけている。	町内会にも呼びかけをし、地域の消防団の参加を得て、年3回訓練を実施しており、消防団には、避難させた利用者の安全確保のための見守りをお願いしている。また、災害時に備えた水や食料、物品等も用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの言葉を傾聴する姿勢を忘れずに、介助時には羞恥心や自尊心に配慮している。また、対応や声かけで不適切な部分がある時は、職員間で再発防止に努めている。	トイレが居室に設置されている他、職員は利用者の尊厳や、羞恥心に配慮し、その時々 の状況に合わせて適切に声かけを行っている。また、職員は、守秘義務や個人情報の取り扱いについて研修で学び、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を汲み取り、職員側からの声かけにて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが強制せず、自分のペースで暮らせるよう、一人ひとりの状態や希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服はその日の本人の要望に沿うように支援している。また、理・美容院はこれまで行っていた所に予約を入れ、送迎して出かけられるよう支援していたが、感染症予防のため、施設に出張していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は季節を感じられるメニューを取り入れている。利用者の嗜好を把握し、代替食も準備している。利用者にはできる範囲で、食事の下拵えやテーブル拭き等をお手伝いしていただいている。	法人の栄養士が献立を作成し、食材の発注と調理は職員が行っており、苦手な献立を外す等の配慮をしている。また、職員は、利用者と一緒に席に着き、見守りやさり気ないサポートを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスを管理しており、お粥や刻み食等、利用者に合わせた食事を提供している。また、チェック表により、食事・水分摂取量を記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔内・義歯洗浄を行うように誘導し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、一人ひとりに応じた誘導を行い、できる限りトイレでの排泄支援を行っている。	殆どの利用者が排泄の自立をしており、毎日状況観察をして、必要と思われる時に、羞恥心に配慮して声がけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳やヨーグルト等を提供している。1日の水分摂取量を記録し、歩行運動や軽体操を行っているが、困難な方には下剤の調整により、定期的な排泄ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴日を設定しているが、本人の状態・体調に合わせ、希望により随時入浴は可能である。入浴の拒否がある場合は無理に勧めず、本人の気持を大切に、日を改めている。	ホームは温泉を利用しており、基本的に週3回入浴できるようにしている。また、好みの温度で入浴してもらおう等、習慣や意向に配慮しており、利用者が、ゆったりと入浴を楽しめるよう、職員はつきりすぎ等に注意して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を把握し、その日の状況や希望に沿って休息を取り入れている。また、夜間眠れない人は、必要に応じて医療機関と相談しながら、薬の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、飲み忘れや間違いがないよう、1包毎に日付、色分けをしている。変更等があった場合は連絡ノートを利用し、全職員に伝達周知している。状態の経過や変化がある時には、主治医や家族に報告し、話し合っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力量を把握し、役割や楽しみにつなげる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、以前のように外出できる状況にはないが、家族と病院受診した後に自宅に寄ってもらう等している。	コロナ禍であるが、できるだけ外へ出るよう支援しており、希望があれば、近くに買い物に出かけたり、天気の良い日は、近くの寺や公園を散歩している。また、希望を聞きながら、数人でドライブに出かける等、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に説明し、家族了解のもと、自身で管理できる方には所持していただき、困難な方には職員が対応し、お金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や親類、家族を含め、本人が希望する場合や電話が来た時には、居室内でプライバシーに配慮しながら対応している。また、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々に季節の花や展示物等を工夫し、季節を感じられるように配慮している。館内の温度や湿度を調整し、気持ち良く暮らせるようにしている。	ホールは明るく清潔で、利用者が思い思いの場所でゆっくり寛げるように、家庭的な雰囲気作りを行っている。また、季節を感じられる手作りの作品や文化祭へ出展した作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には個人の座る椅子の他に長椅子を置き、いつでも談話・交流ができるようにしている。お互いの居室に行き来して、テレビを観たり、交流を楽しむことができるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使用していた家具や使い慣れた小物等、馴染のある物を持って来ていただくように働きかけ、安心して住み良い環境となるように支援している。	居室にはテレビや仏壇、タンス等の家具、家族の写真、人形、置物等、多様な持ち込みをしている。持ち込みが少ない場合は、利用者の希望を聞きながら、一人ひとりに合った居室作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで居室・廊下には手摺りが設置され、安全に移動できる環境である。また、各居室内にはトイレ・洗面台があり、自立した暮らしが送れている。		